

TOPPANホールディングス、CDP 2024にて
「気候変動」「水セキュリティ」2分野での最高評価「Aリスト」に初選定
「気候変動」は2年連続、「水セキュリティ」は初のAリスト選定

TOPPANホールディングス株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下TOPPANホールディングス)は、環境情報開示に関する国際的な非営利団体「CDP」による2024年度調査において、「気候変動」「水セキュリティ」2分野での開示・取り組みが高く評価され、最高評価「Aリスト」に選定されました。

TOPPANホールディングスの2分野でのAリスト選定は初、「気候変動」が2年連続選定、「水セキュリティ」が初選定となります。



■CDPについて

CDPは国際的な環境非営利団体で、世界の企業・自治体を対象に、環境問題に関する高い目標設定・リスク管理・情報開示などの取り組みについて調査・評価を行っています。CDPが年次で実施している評価プロセスは、気候変動に関する情報開示の枠組みであるTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言にも準拠しており、企業の環境活動評価のグローバルスタンダードとして広く認知されています。

2024年にCDPを通じてデータを開示した企業の本数は、全世界では24,800社まで増加し、世界の時価総額の66%以上を占めています。日本では、プライム市場上場企業の70%以上を含む2,100社以上がデータを開示しています。

■TOPPANグループの環境への取り組み

TOPPANグループはこれまで、将来にわたってあらゆる生命が存続できる持続可能な社会の実現に向けた取り組みを加速させるため、様々な取り組みを継続的に実施しています。

2023年には「TOPPANグループ環境ビジョン2050」に新たなテーマとして「生物多様性の保全」を追加するとともに、SDGs目標年に合わせ設定している「TOPPANグループ2030年度中長期環境目標」についても、生物多様性保全と水の最適利用に関する新たな目標を設定しています。

2024年1月にはTNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)最終提言への賛同を表明し、「TNFDアーリーアダプター(※1)」として企業報告をTNFDフレームワークに沿った形で開示する意向を登録。2024年に発行した「サステナビリティレポート2024」および「統合レポート2024」において、TNFD情報開

示を実施しています。

温室効果ガス排出削減については2024年8月、Scope1,2,3を含むバリューチェーン全体での温室効果ガス排出削減目標について、国際的なイニシアチブ「SBTi(Science Based Targets initiative)」から新たに「ネットゼロ目標」としての認定を取得。野心的な削減目標の達成に向けて着実な取り組みを進めています。

今回のCDP 2分野でのAリスト選定は、こうした環境分野の継続した取り組みが、国際的な基準においても高く評価された結果と認識しています。

TOPPANグループは今後も、グループ各企業が持つ強みや特長を掛け合わせてグループシナジーを発揮し、「DX(Digital Transformation)」と「SX(Sustainable Transformation)」によってワールドワイドで社会課題を解決するリーディングカンパニーとして、ステークホルダーの皆さまとともに持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指していきます。

※1 TNFD アーリーアダプター:TNFD 提言に沿った情報開示を行う意思をTNFDのウェブサイト上で登録した企業・組織を指し、2024年度分または2025年度分のいずれかにおいて、TNFD 提言に準拠した開示を行うことが求められるもの。2024年1月9日までに登録した企業は「アーリーアダプター」として登録されている

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上